

平成18年6月1日

平成17年度決算概況（平成18年3月末）

横浜信用金庫（横浜市中区尾上町2-16-1 理事長 斎藤 寿臣）は、平成18年6月23日（金）の総代会において平成17年度の決算について報告します。

つきましては、「平成17年度決算資料」を添えてお知らせします。

1. 本決算のポイント

- (1) 55期連続黒字決算
- (2) 貸出金平均残高が6期ぶりに増加
- (3) 不良債権残高の減少

2. 業 容

預金（譲渡性預金を含む）平均残高は、前年度比2.08%増加し12,667億円となりました。預金期末残高は、法人預金・個人預金ともに順調に推移して前年度比2.59%増加し13,058億円となりました。

貸出金平均残高は、前年度比0.75%増加し7,983億円、期末残高は同1.86%増加し8,365億円となりました。貸出金平均残高は6期ぶりの増加となり減少傾向に歯止めがかかりました。

3. 損 益

経常収益は、前年度比1億51百万円減の291億75百万円となりました。減収の要因は貸出金利息の減少によるものです。

経常費用は、前年度比35億61百万円減の227億11百万円となりました。不良債権処理費用が大幅に減少（下表参照）したことによります。

この結果、経常利益は、前年度比34億9百万円増の64億63百万円となりました。また、本業の収益力を表わす業務純益（一般貸倒引当金繰入後）は、前年度比3億58百万円減の74億89百万円となりました。

今年度から固定資産の減損会計が適用となり、営業用店舗等の土地建物を776百万円減額し、同額を減損損失として特別損失に計上しました。

当期純利益は、前年度比13億64百万円増の31億66百万円となりました。これにより、昭和26年に信用金庫に組織変更して以来、55期連続の黒字決算となりました。

<不良債権処理費用>

	16年度	17年度	増減額
貸出金償却	46百万円	2百万円	△44百万円
個別貸倒引当金繰入額	4,272	1,070	△3,202
債権売却費用	450	148	△301
合 計	4,769	1,221	△3,548

（参 考）

一般貸倒引当金繰入額	△429	△647	△217
------------	------	------	------

（注）貸倒引当金繰入額は個別貸倒引当金繰入額と一般貸倒引当金繰入額の合計額となります。

4. 諸比率

貸出金利回は2.62%と前年度比0.09ポイント低下、預金利回は0.07%と同0.01ポイント低下、経費率は1.48%と同0.01ポイント低下し、預金貸出金利鞘は、1.07%と前年度比0.07ポイント縮小しました。

資金運用利回は1.90%と前年度比0.06ポイント低下、資金調達原価率は1.58%と同0.02ポイント低下し、総資金利鞘は、0.32%と前年度比0.04ポイント縮小しました。

自己資本比率は、9.18%と前年度比0.13ポイント低下しましたが、依然として国際基準(8%)を上回る高い水準を維持しています。

また、中核的自己資本(Tier1)に占める繰延税金資産(注)の比率は、9.90%と前年度比0.48ポイント低下しました。

(注)「その他有価証券」の評価損に係る繰延税金資産734百万円を除く。

5. 不良債権

不良債権残高は、信用金庫法基準・金融再生法基準共に前年度末に比べ25%前後減少しました。企業再生に積極的に取り組むとともに、企業実態のない先等に対しては直接償却、担保物件処分、サービスへの売却により不良債権のオフバランス化を図りました。不良債権比率は、信用金庫法基準が前年度の8.19%から6.05%に、金融再生法基準が前年度の8.19%から6.00%に、4期連続して低下しました。また、不良債権に対する担保・貸倒引当金等による保全率は94%を超えています。

6. 18年度計画

18年度の利益計画は次のとおりです。

①業務純益	71億44百万円	(前年度比	△3億45百万円)
②経常利益	49億43百万円	("	△15億20百万円)
③当期純利益	32億60百万円	("	+94百万円)

たしかな明日のお手伝い



横浜信用金庫

神奈川・東京に60店舗